公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

The Mother Land YAMAGATA
検証報告書

２０１４年度　６０周年準備委員会

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

第一章
The Mother Land YAMAGATA　とは

１－１　The Mother Land YAMAGATAとは

The Mother Land YAMAGATA

２００５年、社団法人山形青年会議所（以下山形ＪＣ）の50周年の節目の年に先達の志と軌跡を継承し、これからの山形ＪＣの進むべき指針としてまとめられた提言。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

１－２　提言制定の背景

2000年 “2000年代 山形JC運動指針”
「アクティブバランス都市 山形」制定

高度成長期に失った負の財産を、自然･都市環境などのハード面、健全なこころの環境･ひとづくりなどのソフト面、その両面のバランスのとれた発展を通じて解消していくことが、山形JCの使命であると考え、「新山形創造エンジン」(まちづくりを推進する原動力/検索機関)としての役割を自覚し様々な活動を展開。.

2005年 “山形JC 創立50周年提言”
「The Mother Land YAMAGATA」制定

「アクティブバランス都市　山形」の理念や志を継承しつつ、新たな社会問題や現状を見据えた上で、時代に即応した新たな山形のまちづくり運動の指針として「The Mother Land YAMAGATA」を制定

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

1 － 3　The Mother Land YAMAGATA 制定の目的

〈産業経済社会構造の変化〉

- 少子高齢化の進展
- グローバル化
- 社会的価値観の変化（物質的欲求→生活の質的向上に対する欲求）

〈地域生活の変化〉

- 少子高齢化による労働人口減少、負担の増大
- 過疎化による社会制度やコミュニティーの問題
- 環境問題

経済最優先で盲目的に突き進んできたなかで、
物理的・産業的に成熟・飽和社会を迎えているが、
反面、精神的・地球環境的にはまだまだ未熟であった。

いま求められているのは「こころ」の大切さ・・・
地域性、伝統・文化、自然、あたたかいひとのこころ、
本当の良き“やまがた”母なる共生共創の郷の実現

「The Mother Land YAMAGATA」

１－４　The Mother Land YAMAGATA 制定

The Mother Land YAMAGATA
～母なる共生共創の郷の実現に向けて～

昔ながらの環風景が残され、おもてなしのこころが息づくまち「YAMAGATA」。訪れた人々は、四季が織り成す美しく彩られた環風景に身をゆだね癒される。住まうものは皆活き活きとしお互いを助け合う。何よりもここにはあたたかいおもてなしのこころが満ち溢れている。世界中の人々がいつか訪ねたい、帰ってきたい、住んでみたいと感じるまち、それが母なる共生共創の郷「The Mother Land YAMAGATA」です。私達は、YAMAGTAだからこそ実現するまちづくり、郷を愛する心が織り成すまちづくり、母なる共生共創の郷「The Mother Land YAMAGATA」の実現に向けて走り続けます。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

１－５　The Mother Land YAMAGATA の構成要素

ひとのこころが循環するまち YAMAGATA

- 郷育事業の推進
- 共育事業の推進
- 環境先進都市YAMAGATAの実現に向けて

環風景の保存と観光立市 YAMAGATA

- 環風景保存事業の推進
- まちの魅力・観光推進事業の推進
- 世界を視野に入れた観光立市 YAMAGATA推進

The Mother Land YAMAGATA

母なる共生共創の郷の実現に向けて

文化が彩るまち YAMAGATA

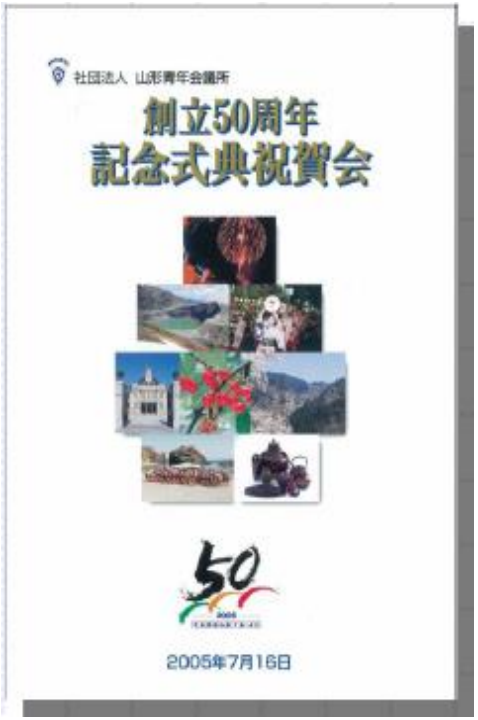
- 伝統文化事業の推進
- 新芸術文化事業の推進

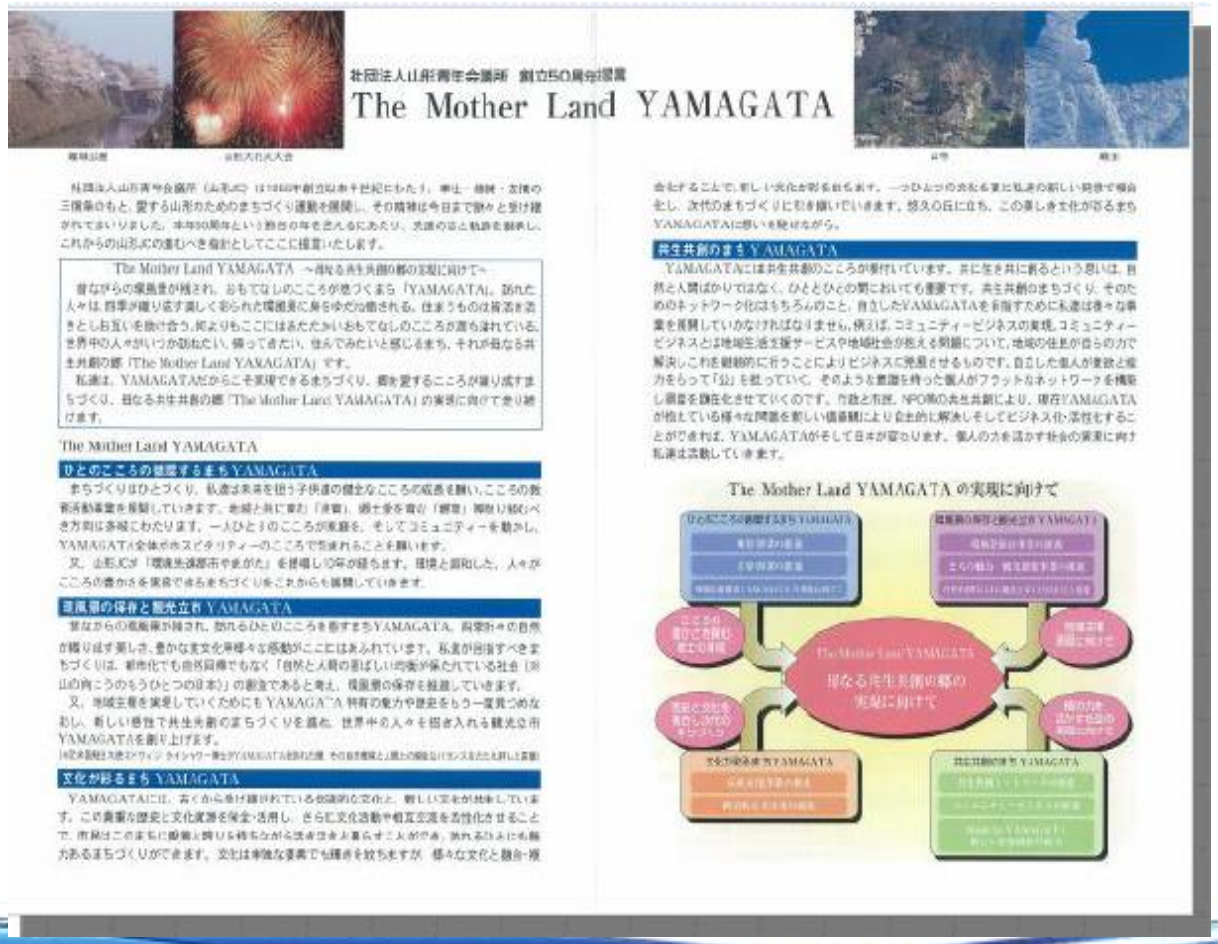
共生共創のまち YAMAGATA

- 共生共創ネットワークの推進
- コミュニティービジネスの推進
- Made by YAMAGATA　新しい企業価値の拡大

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

１－６　創立50周年式典にて発表





社団法人山形青年会議所　創立50周年記念

The Mother Land YAMAGATA

The Mother Land YAMAGATA ～母なる共生共創の郷の実現に向けて～

昔ながらの環境豊が残され、おもてなしのこころが息づくまち「YAMAGATA」。訪れた人々は、四季が織り成す美しく彩られた環境美に身をゆだね癒される。住まうものは誇りを持ちとしお互いを助け合う。何よりもここにはあたたかいおもてなしのこころが満ち溢れている。世界中の人々がいつか訪ねたい、帰ってきたい、住んでみたいと感じるまち。それが母なる共生共創の郷「The Mother Land YAMAGATA」です。

私達は、YAMAGATAからこそ実現できるまちづくり。郷を愛するこころが織り成すまちづくり。母なる共生共創の郷「The Mother Land YAMAGATA」の実現に向けて走り続けます。

The Mother Land YAMAGATA

ひとのこころの健康するまちYAMAGATA

まちづくりはひとづくり。私達は未来を担う子供達の健全なこころの成長を願い、こころの教育活動事業を展開していきます。地域と共に「家庭」「学校」「郷土愛を育む」「郷育」「郷育り」を通じて目指すべき方向は多岐にわたります。一人ひとりのこころが成長を、そしてコミュニティーを動かし、YAMAGATA全体がホスピタリティーのこころで包まれることを願います。

又、山形JCが「環境先進都市やまがた」を提唱し10年が経ちます。環境と調和した、人々がこころの豊かさを実感できるまちづくりをこれからも展開していきます。

環風景の保存と観光立市YAMAGATA

昔ながらの環境豊が残され、訪れるひとのこころを癒すまちYAMAGATA。四季折々の自然が織り成す美しさ、豊かな食文化等様々な感動がここにはあふれています。私達が目指すべきまちづくりは、都市化でも自然回帰でもなく「自然と人間の望ましい均衡が保たれている社会（※山の向こうのもうひとつの日本）」の創造であると考え、環風景の保存を推進していきます。

又、地域主権を実現していくためにもYAMAGATA特有の魅力や歴史をもう一度見つめなおし、新しい感性で共生共創のまちづくりを進め、世界中の人々を招き入れる観光立市YAMAGATAを創り上げます。

※北米原住民族のスウィン・クイントワー博士がYAMAGATA訪問の際、その自然環境と人間との理想的なバランスをたたえ評した言葉

文化が彩るまちYAMAGATA

YAMAGATAには、古くから受け継がれている伝統的な文化と、新しい文化が共存しています。この貴重な歴史と文化資源を保全・活用し、さらに文化活動や相互交流を活性化させることで、市民はこのまちに愛着と誇りを持ちながら活き活き暮らすことができ、訪れるひとにも魅力あるまちづくりができます。文化は単独な事柄でも輝きを放ちますが、様々な文化と融合・複合することで、新しい文化が彩られます。一つひとつのかけがえのない文化に私達の新しい発想で複合化し、次代のまちづくりに彩を織りていきます。悠久の日に立ち、この豊かな文化が彩るまちYAMAGATAに想いを馳せながら。

共生共創のまちYAMAGATA

YAMAGATAには共生共創のこころが息付いています。共に生き共に創るという思いは、自然と人間ばかりではなく、ひとりひとりの間においても重要です。共生共創のまちづくり、そのためのネットワーク化はもちろんのこと、自立したYAMAGATAを目指すために私達は様々な事業を展開していかなければなりません。例えば、コミュニティービジネスの実現。コミュニティービジネスとは地域生活支援サービスや地域社会が抱える問題について、地域の住民が自らの力で解決しこれを継続的に行うことによりビジネスに発展させるものです。自立した個人が連帯と協力をもって「公」を担っていく。そのような意識を持った個人がフラットなネットワークを構築し環境を顕在化させていくのです。行政と市民、NPO等の共生共創により、現在YAMAGATAが抱えている様々な問題を新しい価値観により自主的に解決しそしてビジネス化・活性化することができれば、YAMAGATAがそして日本が変わります。個人の力を活かす社会の実現に向け私達は活動していきます。

The Mother Land YAMAGATA の実現に向けて

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

第二章
事業検証

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－１　２０１０年度

スローガン

「Ｂｅｌｉｅｖｅ　ｉｎ
Ｏｕｒ　Ｄｒｅａｍｓ！
～この旗の下に集い　重ねる意思を現実に
一歩一歩　大地を踏みしめ　前へ！～

理事長　荒井　寛　　会員数　１１０名

〈ＪＣレポートより抜粋〉

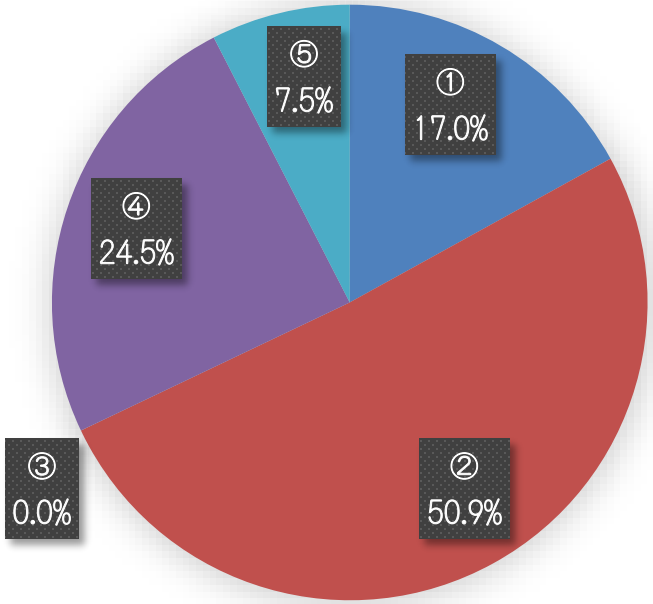
本年、（社）山形青年会議所は【Ｂｅｌｉｅｖｅ　ｉｎ　Ｏｕｒ　Ｄｒｅａｍｓ！この旗の下に集い　重ねる意思を現実に　一歩一歩　大地を踏みしめ　前へ！】というスローガンを掲げ、正会員１１０名で出立をいたしました。混迷を極めている社会環境において、数多くの諸問題が山積し地域社会の衰退や経済情勢の悪化など、人々にさまざまな先行き不安が齎されている世の中であります。しかしながらこのような時代だからこそＪＣが率先して行動を起こすことが必要であり、何より青年経済人として逞しく強い精神を持ち続けることが、この山形のために貢献でき得るものであります。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－２Ａ　２０１０年度事業仕分け結果

項　　目	件数	割合
①ひとのこころの循環するまちYAMAGATA	9	17.0%
②環風景の保存と観光立市YAMAGATA	27	50.9%
③文化が彩るまちYAMAGATA	0	0.0%
④共生共創のまちYAMAGATA	13	24.5%
⑤全般	4	7.5%

※総事業数：53

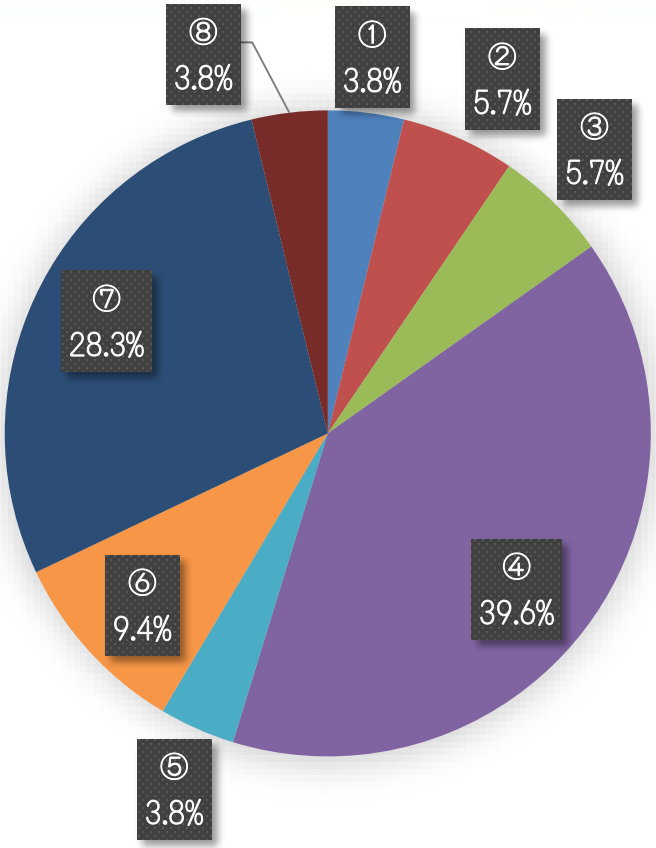


２０１０年
５５周年のこの年、２００９年までの検証、並びに事業仕訳を行なう。
ＡＳＰＡＣ開催決議が２００９年にＬＯＭとして走りだし、誘致に関しＡＳＰＡＣ招致会議が委員会として発足された年である。荒井理事長の夢に向けた一歩を踏みしめていこうという思いの倣い、ＡＳＰＡＣを観光立市ＹＡＭＡＧＡＴＡの実現への一歩とし事業もそれにならったものが過半数を占める。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－2B　２０１０年度定款仕分け結果

項　　目	件数	割合
①政治、経済、社会及び文化等に関する調査研究並びにその向上に資する事業	2	3.8%
②体験活動やスポーツ等を通じて児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業	3	5.7%
③教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする事業	3	5.7%
④催事の開催や参画等を通じて地域社会の健全な発展を目的とする事業	21	39.6%
⑤国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業	2	3.8%
⑥指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業	5	9.4%
⑦国際青年会議所および公益社団法人日本青年会議所及び国内、国外の青年会議所並びにその他の諸団体と連携し、相互の理解と親善を増進する事業	15	28.3%
⑧その他、本会議所の目的を達成するために必要な事業	2	3.8%



※総事業数：53

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－３　２０１１年度

スローガン

「ＭＯＶＥ　ＯＮ　ＴＯＧＥＴＨＥＲ
～友と歩む、さらなる一歩！～」

理事長　船橋　吾一　　会員数　１１０名

〈ＪＣレポートより抜粋〉

「ＭＯＶＥ　ＯＮ　ＴＯＧＥＴＨＥＲ　～友と歩む、さらなる一歩！～」のスローガンの下、２０１１年度が元気よくスタートしました。しっかりとした事業構築を行い、いつでも事業を実施できる状況での船出でありました。

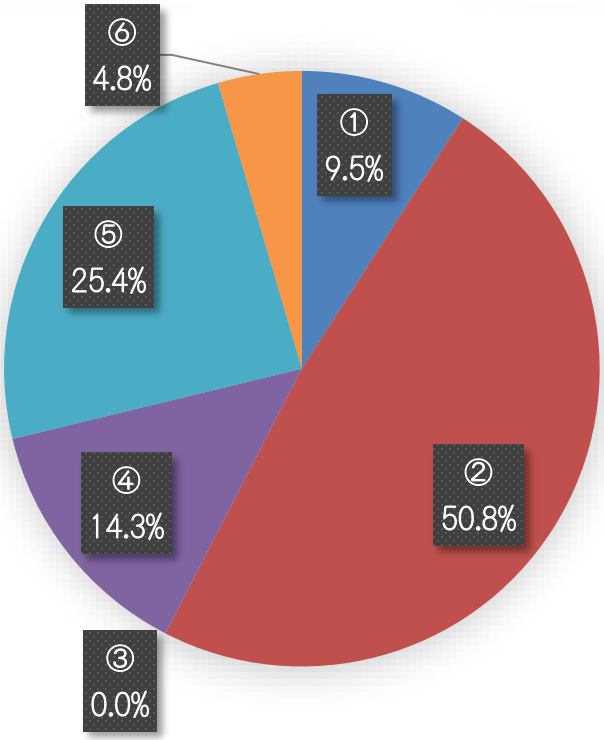
そんな矢先に、３月１１日の未曾有の東日本大震災が発生しました。発生と同時に、山形ＪＣ一丸となり、あらゆる計画された事業を中止しながら「出来ることから始めよう」というキーワードの下、支援活動を展開しました。日本ＪＣからの救援物資の仕分けそして被災地への搬入、山形市内に設置された避難所への炊き出しや救援物資搬入、そして被災地に出向いての炊き出しや募金活動などのいわゆる直接支援を行ってきました。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－３Ａ　２０１１年度事業仕分け結果

項　　目	件数	割合
①ひとのこころの循環するまちYAMAGATA	6	9.5%
②環風景の保存と観光立市YAMAGATA	32	50.8%
③文化が彩るまちYAMAGATA	0	0.0%
④共生共創のまちYAMAGATA	9	14.3%
⑤全般	16	25.4%

※総事業数：63

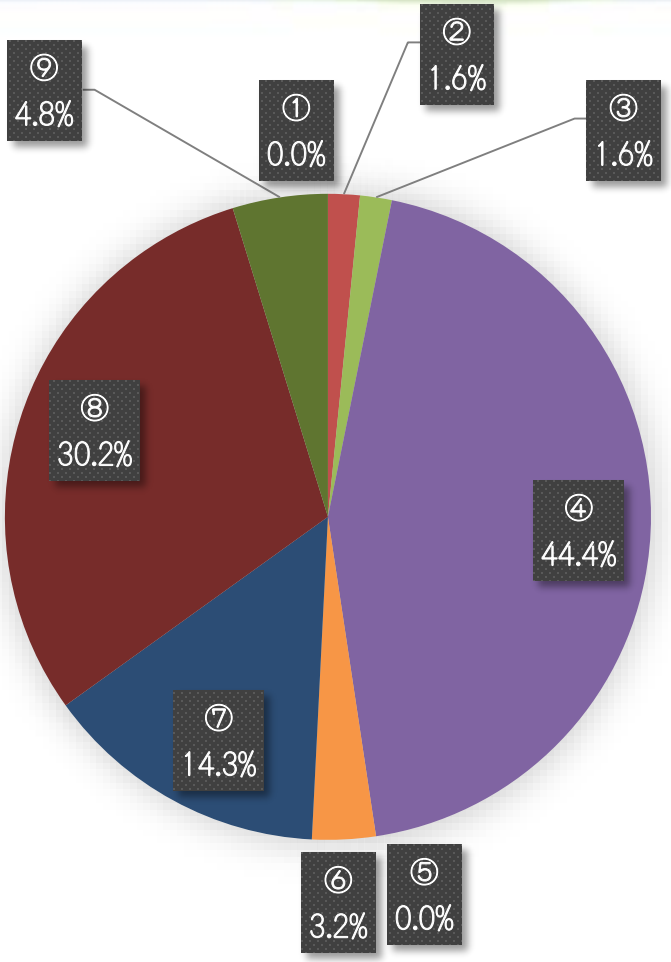


２０１１年
東日本を突如襲った東日本大震災。当初立案していた事業を遂行すべきか、ＬＯＭとしての方向性も再考しなければならなかったが、船橋理事長のもとメンバー一丸となってこれまで推進してきたＡＳＰＡＣ関連事業、公益事業としての花火大会を成功させた年でもある。また当年度は夢を現実（かたち）にする特別委員会がＡＳＰＡＣ関連の準備事業を開始した。ボランティアとして復旧、復興活動を事業としてではなく積極的に行なった。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－３Ｂ　２０１１年度定款仕分け結果

項　　目	件数	割合
①政治、経済、社会及び文化等に関する調査研究並びにその向上に資する事業	0	0.0%
②体験活動やスポーツ等を通じて児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業	1	1.6%
③教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする事業	1	1.6%
④催事の開催や参画等を通じて地域社会の健全な発展を目的とする事業	28	44.4%
⑤国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業	0	0.0%
⑥指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業	2	3.2%
⑦国際青年会議所および公益社団法人日本青年会議所及び国内、国外の青年会議所並びにその他の諸団体と連携し、相互の理解と親善を増進する事業	9	14.3%
⑧その他、本会議所の目的を達成するために必要な事業	19	30.2%
⑨中止（震災の為）	3	4.8%



※総事業数：63

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－４　２０１２年度

スローガン

「決断と行動」
～無限の可能性と自分の力を信じて～

理事長　野口　雅弘　　会員数　１０６名

〈ＪＣレポートより抜粋〉

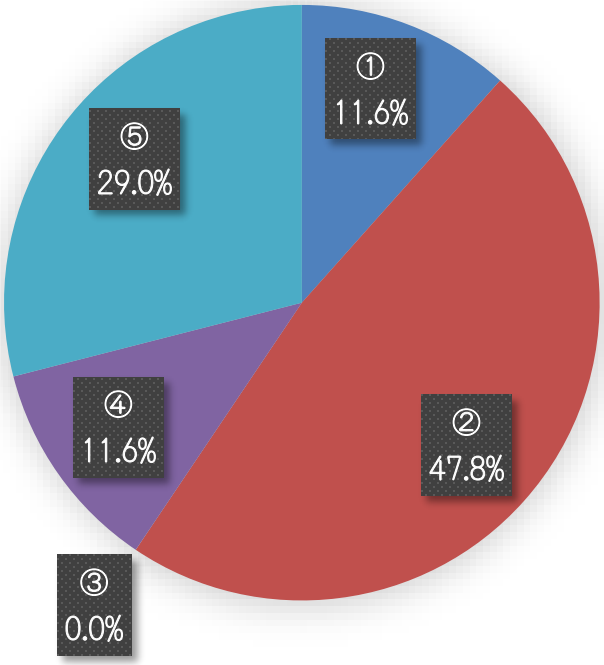
私たちは何を目指して青年会議所運動をしているのか、本当に自問自答した一年でありました。私は会員の皆様の前で２０１２年の山形青年会議所の指針となり行動すると宣言し理事長職をお預かりしてから長いようで短い一年を過ごさせて頂きました。それは私たちが青年会議所運動に対し理解をして、有意義な時間を過ごせたからではないでしょうか。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－４Ａ　２０１２年度事業仕分け結果

項　　目	件数	割合
①ひとのこころの循環するまちYAMAGATA	8	11.6%
②環風景の保存と観光立市YAMAGATA	33	47.8%
③文化が彩るまちYAMAGATA	0	0.0%
④共生共創のまちYAMAGATA	8	11.6%
⑤全般	20	29.0%

※総事業数：69



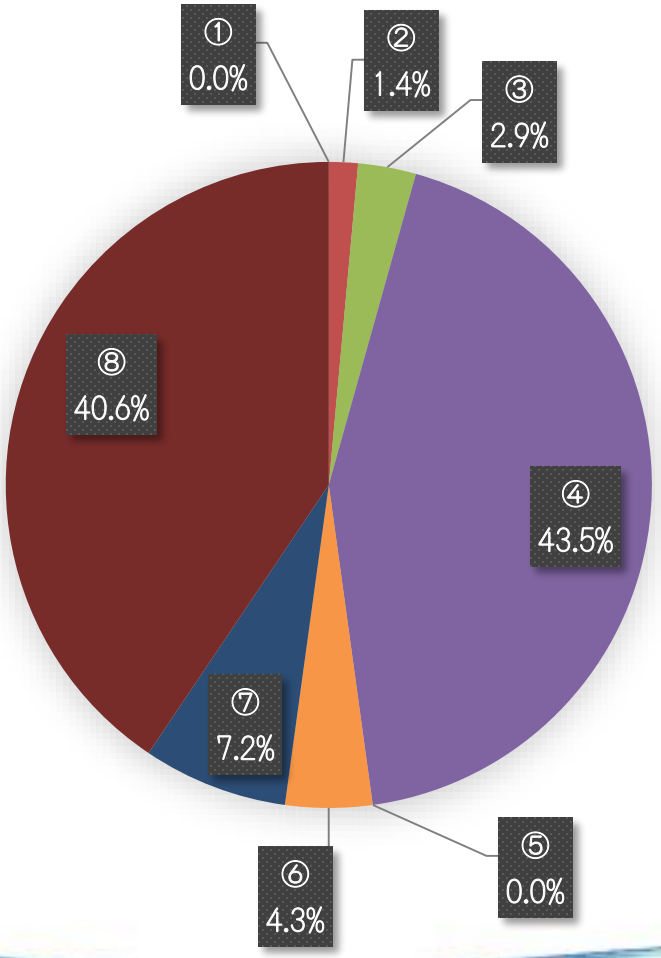
２０１２年
目前に迫るＡＳＰＡＣに向け、野口理事長を始めとし各委員会にＡＳＰＡＣの担いを持たせ意識高揚と団結力を高めた当年度。ＡＳＰＡＣ準備委員会を先頭として全メンバーが大会へ向けて思いを持って活動した。また、やまがた案内番所、ＫＩＤ‘ＳＡＲＴ羅針盤事業を再考しＡＳＰＡＣと関連付けを持ったまちづくり、ひとづくりを目指す動きもあった年である。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－４Ｂ　２０１２年度定款仕分け結果

項　　目	件数	割合
①政治、経済、社会及び文化等に関する調査研究並びにその向上に資する事業	0	0.0%
②体験活動やスポーツ等を通じて児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業	1	1.4%
③教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする事業	2	2.9%
④催事の開催や参画等を通じて地域社会の健全な発展を目的とする事業	30	43.5%
⑤国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業	0	0.0%
⑥指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業	3	4.3%
⑦国際青年会議所および公益社団法人日本青年会議所及び国内、国外の青年会議所並びにその他の諸団体と連携し、相互の理解と親善を増進する事業	5	7.2%
⑧その他、本会議所の目的を達成するために必要な事業	28	40.6%

※総事業数：69



公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－５　２０１３年度

スローガン

「Ｌｅｔ　Ｙｏｕｒ　Ｐｏｗｅｒ　Ｓｈｉｎｅ」
～多くの機会と真摯に向き合い
輝かせよう自分の力～

理事長　井上　周士　　会員数　１１６名

〈ＪＣレポートより抜粋〉

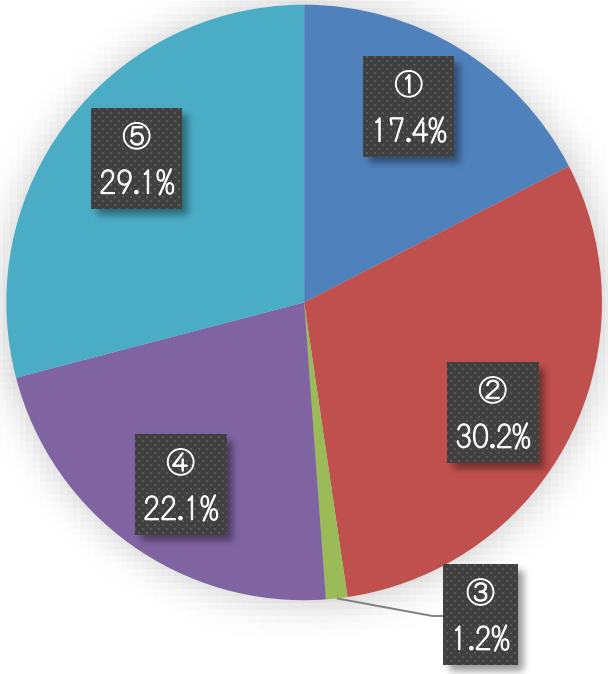
２００５年に山形青年会議所が創立５０周年を迎えたことを記念し策定された提言「Ｔｈｅ　Ｍｏｔｈｅｒ　Ｌａｎｄ　ＹＡＭＡＧＡＴＡ」の中の一つとして、観光立市ＹＡＭＡＧＡＴＡを作り上げるとの指針が示されました。以後、その実現のため２００７年よりＡＳＰＡＣ招致運動を始め、２０１０年には国内招致権を獲得いたしました。ところが、２０１１年東日本大震災に見舞われ、一時は非常に困難な状況となりましたが、多くのお力添えのおかげをもち、昨年念願であった２０１４年の山形での開催が正式決定致しました。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－５Ａ　２０１３年度事業仕分け結果

項　　目	件数	割合
①ひとのこころの循環するまちYAMAGATA	15	17.4%
②環風景の保存と観光立市YAMAGATA	26	30.2%
③文化が彩るまちYAMAGATA	1	1.2%
④共生共創のまちYAMAGATA	19	22.1%
⑤全般	25	29.1%

※総事業数：86



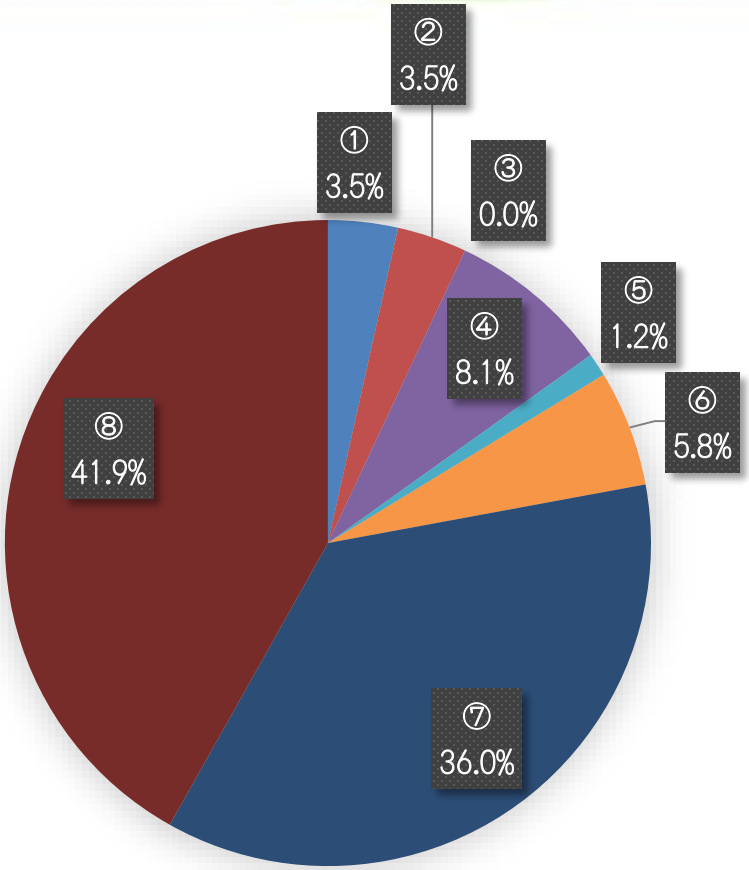
２０１３年
２０１４　ＪＣＩ ＡＳＰＡＣ山形大会ムードが高まる中、井上理事長のまちづくり、ひとづくりへの強い思いから例年の事業を削減することなく、ＡＳＰＡＣと並行して運動を行なった。また準備事務局が大会開催準備を滞りなく遂行し、メンバーも委員会任務とＣＯＣ議案作成、準備に全力で取り組み自分の持つ力を最大限に輝かせた年であった。また拡大に注力し新たな同志が多く入会し大会開催への弾みをつけ、大会本番を迎えた。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－５Ｂ　２０１３年度定款仕分け結果

項　　目	件数	割合
①政治、経済、社会及び文化等に関する調査研究並びにその向上に資する事業	3	3.5%
②体験活動やスポーツ等を通じて児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業	3	3.5%
③教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする事業	0	0.0%
④催事の開催や参画等を通じて地域社会の健全な発展を目的とする事業	7	8.1%
⑤国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業	1	1.2%
⑥指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業	5	5.8%
⑦国際青年会議所および公益社団法人日本青年会議所及び国内、国外の青年会議所並びにその他の諸団体と連携し、相互の理解と親善を増進する事業	31	36.0%
⑧その他、本会議所の目的を達成するために必要な事業	36	41.9%

※総事業数：86

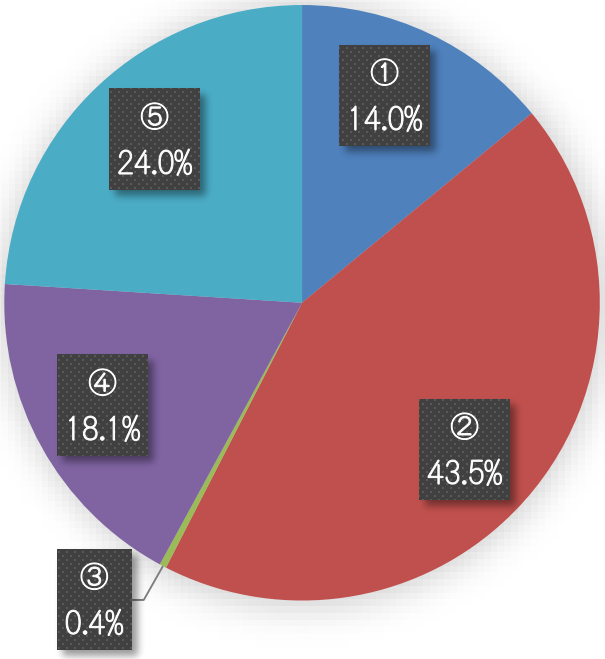


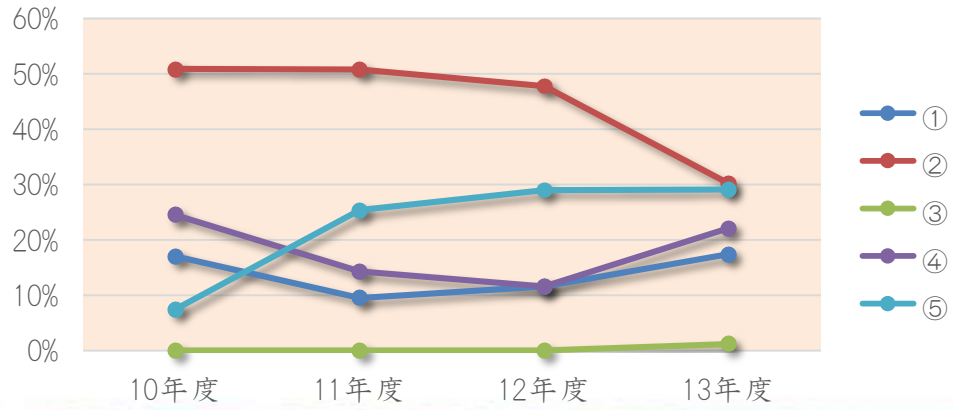
公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－６Ａ　２０１０～２０１３年度事業仕分けまとめ

項　　目	件数	割合
①ひとのこころの循環するまちYAMAGATA	38	14.0%
②環風景の保存と観光立市YAMAGATA	118	43.5%
③文化が彩るまちYAMAGATA	1	0.4%
④共生共創のまちYAMAGATA	49	18.1%
⑤全般	65	24.0%

※総事業数：271

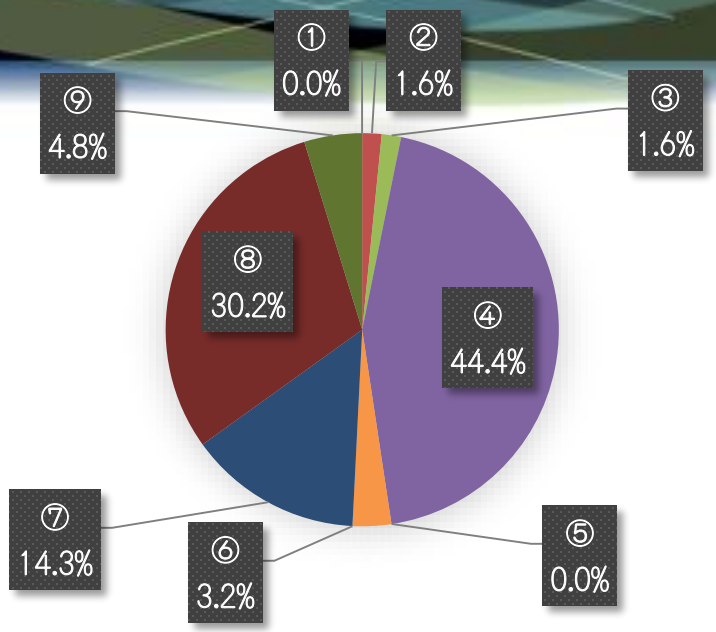


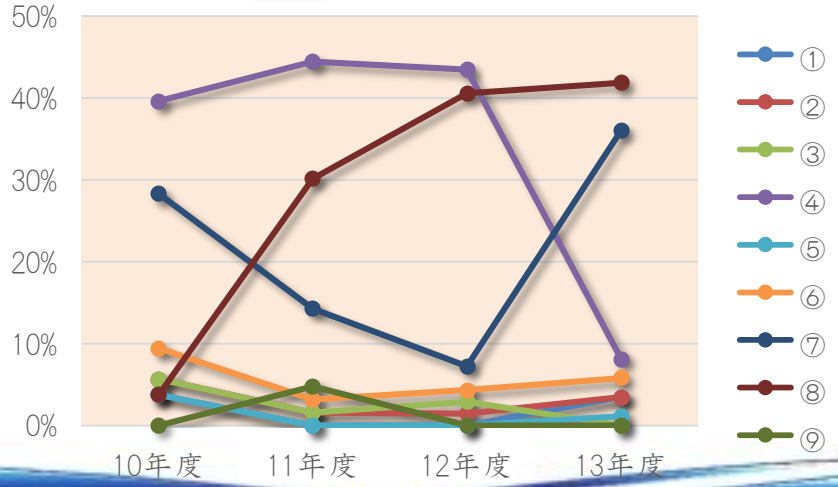


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

２－６Ｂ　２０１０～２０１３年度事業仕分けまとめ

項　　目	件数	割合
①政治、経済、社会及び文化等に関する調査研究並びにその向上に資する事業	5	1.8%
②体験活動やスポーツ等を通じて児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業	8	3.0%
③教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養することを目的とする事業	6	2.2%
④催事の開催や参画等を通じて地域社会の健全な発展を目的とする事業	86	31.7%
⑤国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業	3	1.1%
⑥指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業	15	5.5%
⑦国際青年会議所および公益社団法人日本青年会議所及び国内、国外の青年会議所並びにその他の諸団体と連携し、相互の理解と親善を増進する事業	60	22.1%
⑧その他、本会議所の目的を達成するために必要な事業	85	31.4%
⑨中止（震災の為）	3	1.1%





※総事業数：271

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

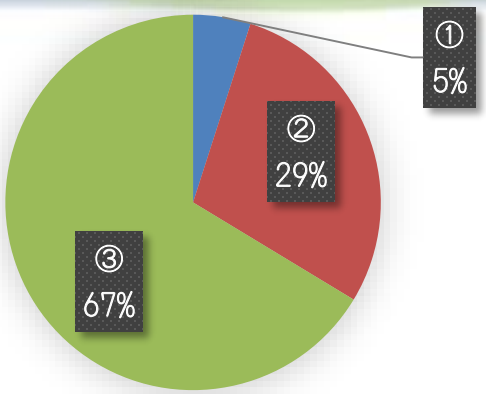
第三章
メンバー向けアンケート調査結果

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－１Ａ　メンバー向けアンケート結果〈３年以降〉

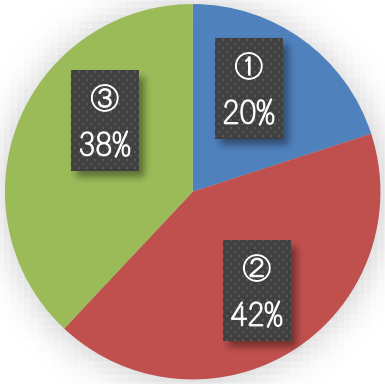
The Mother Land YAMAGATAの実現について委員会内、メンバー内で話していますか？	件数	%
①常に話題としている	3	5%
②時より話している	18	29%
③特に機会を設けていない	42	67%

※有効回答数：63



これまでThe Mother Land YAMAGATAの実現に向けた事業内容立案、運動を展開していましたか？	件数	%
①実現に向けた事業を展開していた	13	20%
②念頭に置いてはいたが実現に向けた動きとは言えなかった	27	42%
③残念ながらできていなかった	24	38%

※有効回答数：64

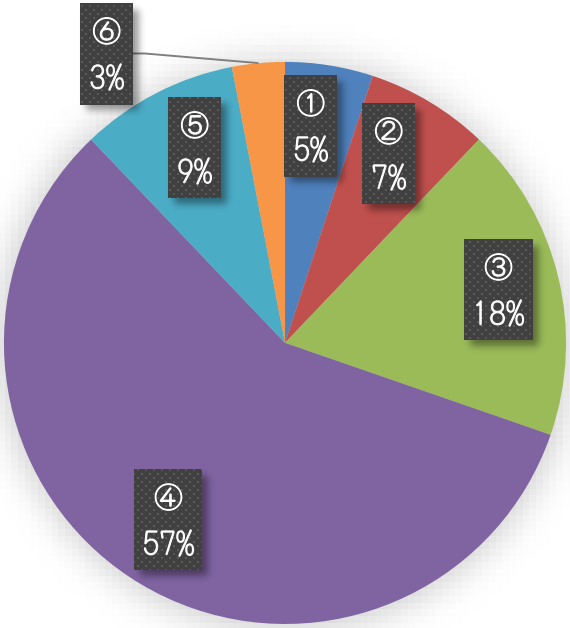


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－１Ｂ　メンバー向けアンケート結果〈３年以降〉

The Mother Land YAMAGATAを発展進化するため今後改善すべき点や課題はございますか。	件数	%
①特になし	4	5%
②４つの柱に対する事業比率のバランス	6	7%
③The Mother Land YAMAGATAの定期的な実施検証	16	18%
④メンバー内での周知活動	50	57%
⑤外部への発信強化	8	9%
⑥The Mother Land YAMAGATAの見直し	3	3%

※有効回答数：87

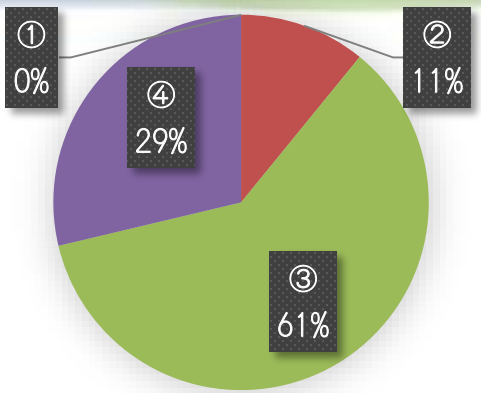


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－２Ａ　メンバー向けアンケート結果〈３年未満〉

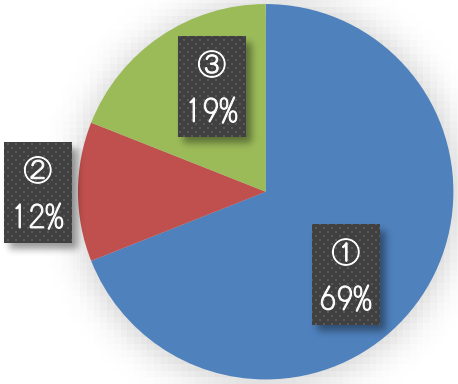
The Mother Land YAMAGATAの内容をご存知でしたか？	件数	%
①よく理解していた	0	0%
②名称は聞いたことがあった。中身もほぼ理解していた	3	11%
③名称は聞いたことがあったが中身はよく知らなかった	17	61%
④まったく知らなかった	8	29%

※有効回答数：28



質問（1）で3.4を選択した方にお伺いいたします。その理由をお答えください。	件数	%
①ＪＣレポートを見てなかった	18	69%
②委員会で話したことがない	3	12%
③内容が理解できなかった	5	19%

※有効回答数：26

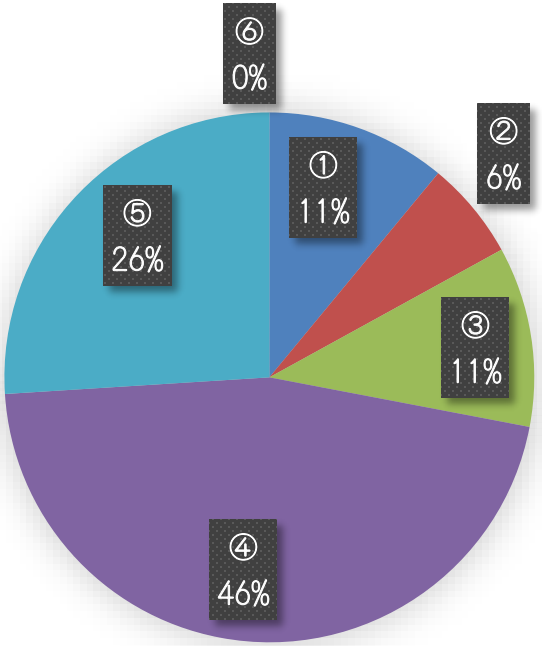


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－２Ｂ　メンバー向けアンケート結果〈３年未満〉

The Mother Land YAMAGATAを発展進化するため今後改善すべき点や課題はございますか。	件数	%
①特になし	4	11%
②４つの柱に対する事業比率のバランス	2	6%
③The Mother Land YAMAGATAの定期的な実施検証	4	11%
④メンバー内での周知活動	16	46%
⑤外部への発信強化	9	26%
⑥The Mother Land YAMAGATAの見直し	0	0%

※有効回答数：35



公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－３Ａ　メンバー向けアンケート結果〈ご意見〉

（問）
Ｔｈｅ　ＭｏｔｈｅｒＬａｎｄ　ＹＡＭＡＧＡＴＡを発展進化させるため今後改善すべき点や課題はございますか。

言葉は知っていても具体的な内容までわかっているメンバーが少ないと思う。まずはメンバーから周知し理解してもらう	現状の認識もまちまちなため、JC運動を通じての向かう目標や目的もヒトそれぞれになっていると感じる。 ５０周年提言を検証するにあたり、２００４年・２００５年からの時代背景の比較も必須である。
The Mother Land YAMAGATA策定以降の入会メンバーが殆どであるので、現理事メンバーはじめ意識が非常に薄いのではないかと思います。どちらかといえば事業内容にかこつけて無理やりThe Mother Land YAMAGATAにそぐわせている感が強い。	公益法人制度改革以前の提言であることと、議案を作る時にしかその言葉を意識しないのが実情であるように思えるため。
現状、議案作成にあたり項目があるのでその時に文章を考えるのみだと思う。議案作成した事ない人＝提言を知らない。見る機会、考える機会が必要かと（提言が必要なら）	活動の経過が見えづらいように感じております。
特にここ数年はASPACがあったが故に、4つの柱のバランスに欠けていたと思う。	具体的な事業（案）等を用いて今後の活動につなげていってはどうか？
周知・発信のため、内容をホームページに明記したほうが良いかと思います。	

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－３Ｂ　メンバー向けアンケート結果〈ご意見〉

（問）
ＡＳＰＡＣの開催は、Ｔｈｅ　ＭｏｔｈｅｒＬａｎｄ　ＹＡＭＡＧＡＴＡの実現への良い機会であると５５周年時に検証結果として出されております。ＡＳＰＡＣ山形大会がＴｈｅ　ＭｏｔｈｅｒＬａｎｄ　ＹＡＭＡＧＡＴＡの実現に向けどのような効果、影響があったかご意見をお聞かせください。

観光立市ＹＡＭＡＧＡＴＡの実現という点ではＡＳＰＡＣの誘致開催は大きな一歩であったと考えます。その一方で出来なかった事業・運動を今後取り組んでいければと思います。	ＡＳＰＡＣで山形らしさを表現しおもてなしができたのは、これまで先輩方が培ってこられたThe MotherLand Yamagataの理念があるからこそだと思います。
ＡＳＰＡＣ山形大会を開催したことにより、改めて山形という都市を客観的に捉え、計画をたてることで、良い所、足りないところがはっきりしたと思われる。	開催の決定にかかわっている先輩方やメンバーについては、The Mother Land YAMAGATAを意識して様々な活動をされたのだと思います。結果的に様々な影響があったと考えますが、渦中にいるメンバーの一人としてはあまり意識をしておりませんでした。
その検証結果を全然覚えていないし、現在どのように管理、周知しているのかを知らない。周知活動が必要だと今感じる効果があったと思う。	メンバーはもちろん、行政や市民と一体となって運動を発信するとともに、国際化に向けた市民意識の醸成を図る格好の機会であったと思います。しかしながら今後も継続的な展開がなければ一時のものに終わる懸念があります。
まずは入会年度の若い会員は意味を知らない事が多いと思う。担当の委員会に配属にならないとなかなか勉強する機会がないので周知活動というか意味だけでも周知してからの話に思える。	世界を視野に入れた観光立市YAMAGATA推進を具現化したひとつであり、提言から見れば枝葉。　２０１３年住みたい街ランキング１００に入ることができていない状況で、５０周年提言実現への効果は大会に関わった方々、触れた方々が感じたことを今後の課題として受け止めることに期待したい。
「The MotherLand YAMAGATAの実現」が何を意味するのかがまずわからない。	ＪＣという組織が改めて認知され、どんな活動であれ、再度県民にＰＲする土壌ができたのではないか。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

３－３Ｃ　メンバー向けアンケート結果〈ご意見〉

（問） 国際大会を誘致し開催したＬＯＭとして今後どういった運動を展開していくべきか、行いたい事業など山形ＪＣの未来への思いをお聞かせ下さい。	
事業としては今後も存続する団体としての種蒔き活動として青少年育成事業を再度展開される事を願います。幼少期、少年期にＪＣの事業を体感させることで郷土愛やＪＣに対する認知度、理解を深めるのに非常に効果的でひいては将来ＪＣに入会する人材となる事が期待されます。	山形に住む方々にもはっきりと実感して頂けるような、まちづくりへの貢献がもっともっとできる組織になっていくべきだと思っております。
地元を見て全国組織としてではなく一地方都市の一団体として地元の経済の発展の為に何か考える機会があっても良いと思う。原点回帰の機会があっても良いのではないか。	地域の発展に貢献できる事業。その事業を実現することにより、経済効果が生まれたりなど、成果が目に見える形での事業を行うことが、対内的にはメンバーのモチベーション向上、対外的には市民の参画意識の向上という効果を期待でき、よいのではないか、と考えます。
今後の運動展開において、国際大会を誘致し開催したLOMだからということは念頭になくてもいいのではないでしょうか。そこを基軸にしてしまうと今後展開する事業が偏ったものになる（可能性を狭める）ことが懸念されます。The MotherLand YAMAGATAを基軸に、4つ柱のバランスのとれた、アイデアに富んだ事業展開を望みます。	国際大会を誘致したことで種はまかれたと思うので、それを育て枝分かれされていく運動、行動が必要になってくると思う。
国際に目を向けつつも、足元を見据えた事業展開が必要だと思う。山形市民や次世代を担う子供達とともに展開する事業を通して、地域から必要とされるＬＯＭとしての成長が理想。	ASPACだけではなく、継続した国際大会の誘致を図ることで国際交流が盛んな県として成長させたい。四季がはっきりしており、四季折々の食事、見どころが満載な山形を県内のLOM合同で対応できたら面白そう。チームyamagataとしての活動を発信したい。
市民を巻き込んだ事業を行い、再度来県された方々へ現状の魅力、そして、　新たな魅力も感じていただけるような事業	山形に住んでいる人であればＪＣはそういった思いの代弁者であるということを認知してもらえば、さらに県民の協力が得られるのではないか。

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

第四章
市民向けアンケート調査結果

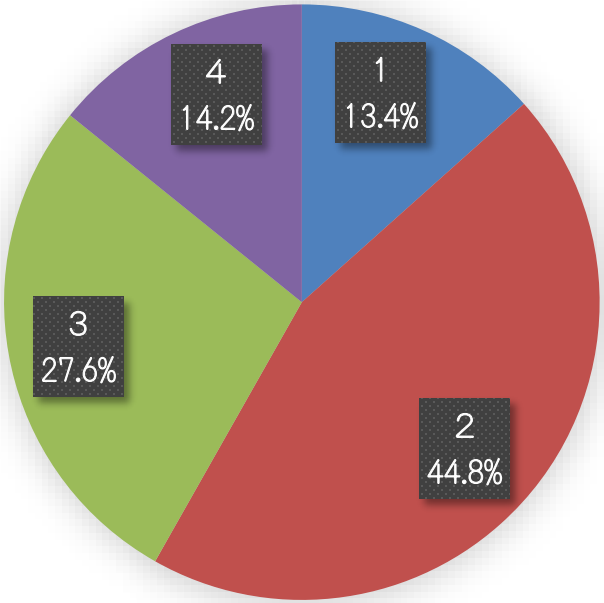
※回答協力先：山形大学JCC、山形市内PTA連合会（各校PTA会長）

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

４－１　市民向けアンケート結果

（１）山形ＪＣがどのような団体かご存知ですか？	件数	割合
１．よく知っている	18	13.4%
２．名称は聞いたことがあり、運動内容は知っている	60	44.8%
３．名称は聞いたことがあったがどんな組織かわからない	37	27.6%
４．まったく知らなかった	19	14.2%

※有効回答数：134

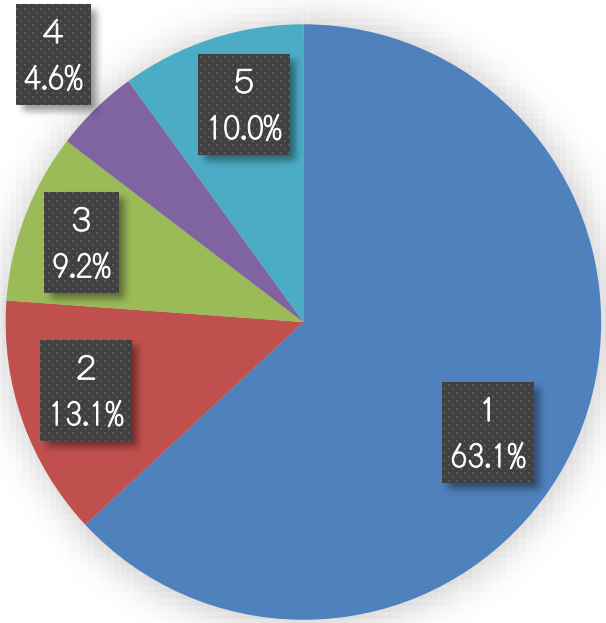


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

４－２　市民向けアンケート結果

（２）１、２、３をお選びの方で山形ＪＣが行っている運動についてご存知のものがあればお書きください。	件数	割合
１．花火大会	82	63.1%
２．ＡＳＰＡＣ	17	13.1%
３．キャップアート	12	9.2%
４．モンテロードでの花植え	6	4.6%
５．その他	13	10.0%

※有効回答数：130

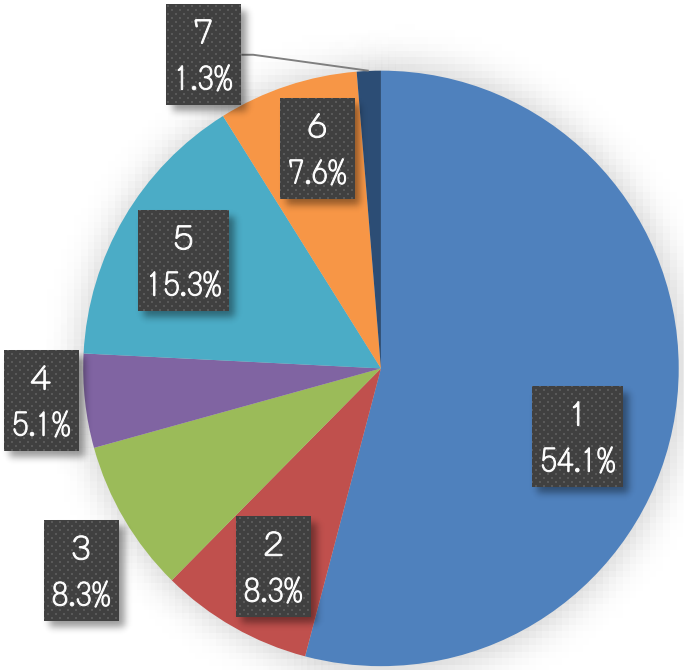


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

４－３　市民向けアンケート結果

（３）１、２、３をお選びの方で山形ＪＣがまちづくりひとづくり団体として一助となっている分野があればお選びください。	件数	割合
１．まちおこしやまちづくり	85	54.1%
２．環境保全	13	8.3%
３．福祉活動	13	8.3%
４．食文化等も含む伝統文化の保存	8	5.1%
５．行政や市民との連携	24	15.3%
６．次世代育成	12	7.6%
７．その他	2	1.3%

※有効回答数：157

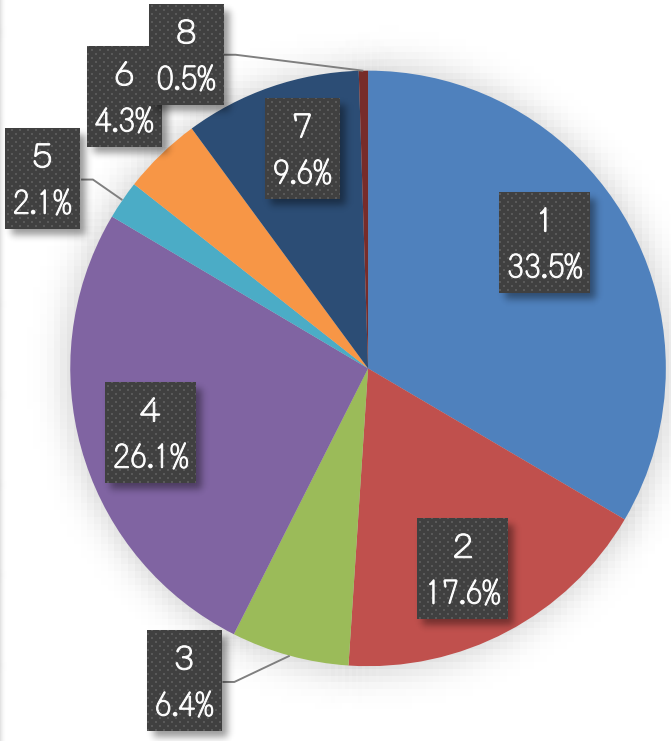


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

４－４　市民向けアンケート結果

（４）皆様へお伺いいたします。今後山形ＪＣに期待する分野があればお選びください。	件数	割合
１．未来のやまがたを担う子どもたちへの青少年育成運動	63	33.5%
２．自然豊かなまちやまがた、環境と調和したまちづくり運動	33	17.6%
３．食文化等の保存	12	6.4%
４．まちの魅力向上を目指す事業と観光立市推進運動	49	26.1%
５．歴史的文化資源の保全活動	4	2.1%
６．伝統文化、新芸術文化事業の推進運動	8	4.3%
７．市民と行政、ＮＰＯ団体との連携	18	9.6%
８．その他	1	0.5%

※有効回答数：188

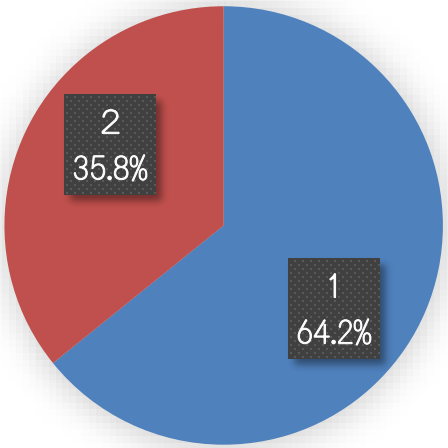


公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

４－５　市民向けアンケート結果

（５）今年度、山形ＪＣは国際青年会議所アジア大会（ＡＳＰＡＣ山形大会）を開催しました。多くの方々にご協力を頂きましたが今後、参加の機会があれば参加していただけますか？	件数	割合
１．参加したい	86	64.2%
２．参加しない	48	35.8%

※有効回答数：134



公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

４－６　市民向けアンケート結果

（問）
山形ＪＣにこういった事業をして欲しい、こうあって欲しい等のご要望をお書きください。

子どもが「楽しい！！」と思えるようなことをやってほしい。例えば、子どもが成長した時に、山形での生活を「楽しかった」と思い返せるようなものを是非！！	ＰＴＡとも連携して、お互いが良くなるようにしていけたら、と思います。
隣県との連携事業などを通して東北六県の振興事業を行ってほしいです。	山形の魅力を全国に発信して欲しい。
地域の子どもたちとボランティア活動などのこともやってほしい。他のボランティア団体で、問題が起きたりなど聞くので問題事の起きない健全な団体であってほしい。	新しい公共を担う組織として行政と市民との橋渡し役として今後もより一層の活動を期待します。今後の山形の元気印として活動の推進をお願いします。
どんな活動をしているのか、ＳＮＳ等でもっと広めることが大切だと思います。	小中学校にＪＣの方々が直接に出向き、何らかのイベントを通じてその存在を知ってもらい、人材育成の一助となって頂きたい。
子どもとの関わりを持った事業を増やして欲しいです。	これからも活力ある活動を続けて欲しい、共に頑張りましょう！！
会の趣旨等がわからないので、何とも言えません。	高額な会費等で、誰でも参加できる団体ではないイメージ。人脈づくりにはとても有効だが、余裕がある企業の二世の団体らしく楽しみより社会貢献を。
山形まちづくり塾の小学生版のようなものがあったらいいと思います。	一時的な集客だけでなく、山形に残る伝統文化で今はあまり知られていない山形ならではの素晴らしいものの発掘と紹介。文化的な街づくり。
８月上旬に霞城セントラルで開催している「青少年のための科学の祭典」にＰＲ等の協力をいただきたい。	若い人の力を集約し、元気ある団体として活動してほしい。期待しています。

第五章
検証から見える今後の課題

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

検証から見える今後の課題

・事業比率の見直し（特に文化系事業が著しく少ない）

・「Ｔｈｅ Ｍｏｔｈｅｒ Ｌａｎｄ ＹＡＭＡＧＡＴＡ」の定期的な検証と内容の再考

・メンバー内での「Ｔｈｅ Ｍｏｔｈｅｒ Ｌａｎｄ ＹＡＭＡＧＡＴＡ」周知活動

・市民の皆様への運動内容の情報発信
（発信はしているものの広く知れ渡っていないケースもある）

・市民が参画できる事業が少ない

第六章
結びに

公益社団法人　山形青年会議所
Junior Chamber International Yamagata

まとめ

私たち山形青年会議所は次年度創立６０周年を迎えます。５０周年時にこれからの進むべき道として提言「Ｔｈｅ Ｍｏｔｈｅｒ Ｌａｎｄ ＹＡＭＡＧＡＴＡ」が指針として出され、実現すべく発信、運動、事業を展開しています。公益社団法人格を取得しこれからもまちづくり、ひとづくり団体として市民の皆様に愛され必要とされる組織でなければなりません。これまで「Ｔｈｅ Ｍｏｔｈｅｒ Ｌａｎｄ ＹＡＭＡＧＡＴＡ」の実現というゴールを目指し事業展開をしてきました。２０１４　ＪＣＩ ＡＳＰＡＣ山形大会を開催するにあたり、観光立市に特化した事業展開をしてきた昨今の流れをいかに他の分野に波及していくか、そして連動した事業を展開することがバランスの良い事業比率に繋がります。

そのためには、５５周年時の検証にもございましたが、メンバー一人ひとりが「Ｔｈｅ Ｍｏｔｈｅｒ Ｌａｎｄ ＹＡＭＡＧＡＴＡ」を理解しそして今後、同志となる新入会員の皆様へ周知していくことが重要となります。定期的な委員会内での意見交換や講習会を行なって下さい。またＬＯＭとしても検証は必要不可欠でございますが、検証を踏まえた事業構築、そしてどのような結果を生み出しているか効果測定をしていかなければなりません。

また、市民の皆様がＪＣというものに対してどのような考えを持っているか真摯に受け止めることが道標となります。アンケート結果の中には厳しいご意見やまだまだ周知不足が否めないという結果が出ています。情報を発信することは言うまでもありませんが、効果的に広く継続的に行なうことで解消されるものです。まちの声に常に耳を傾けこのＹＡＭＡＧＡＴＡの未来をどのように創造していくか、そして手を取り合い、共生共創のまちづくりを考えながらＪＣ運動を推進して参りましょう。

JCI™